

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について（三崎小学校「グローバル表現科」）

○特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（1）実施状況

計画通り実施できている。

（2）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

年度初めの保護者会において説明の場を設けたり、学校だよりを中心とした発信を随時行ったりしている。このことにより、学校だけでなく家庭や地域の協力によっても特別の教育課程の編成の効果が上がっていくことを目指している。

○実施の効果および課題

（1）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

※「令和5年度 教育課程特例校による特別の教育課程 グローバル表現科」の「グローバル表現科新設の理由」や「グローバル表現科の概要」に記載の内容を参考にしながら記載してください。

グローバル化や多様化が急速に進む現代社会において、郷土三崎を愛し、多種多様な文化や考えを尊重した豊かな国際感覚を身に着けた子の育成を目指している。

様々な国の文化に触れることで、国際感覚を少しずつ身に付けていくことはもちろん、改めて郷土三崎のよさについても理解し、愛する心を育むことができた。

一方で、取組初年度であったためカリキュラムの編成に各学年、苦心したところがある。次年度以降はグローバル表現科そのもののカリキュラムはもちろん、他教科との関連（カリキュラム・マネジメント）などもさらに意識して取り組んでいきたい。

（2）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校は「自ら学び、心豊かにはばたく子 ～自ら考え、他者と合意形成を図りながら解を創り出し、生涯にわたって学び続ける力の育成～」を学校教育目標としている。

多種多様な文化や考えを尊重し、豊かな国際感覚を育てることは、学校目標に掲げた「生涯にわたって学び続ける力」の育成に大いに役立っていると考ええる。

一方で、多種多様な文化に触れることは各学年の実態に応じて行うことができたものの、言語については英語に絞るのか、他言語にまで手を伸ばすかで思い悩んだところがあった。

○課題の改善のための取組の方向性

令和5年度はグローバル表現科の特設1年目ということで、高学年を中心に実施してきた。そのため、取組事例について、高学年に集中する傾向があった。令和6年度は全校で実施していきたい。朝自習時間を利用した全校の取組や、1～3年生の外国語タイム等を考えている。